

四季の風

■発行責任者/ 病院長 金岡 祐次
■編集/ 大垣市民病院広報・企画委員会



広報 第60号

●発行 平成29年10月1日●

理念

患者中心の医療・良質な医療の提供



肥満症手術チーム

診療部

専門医が教える家庭の医学

高度肥満症に対する減量手術を含めた最新の治療

大垣市民病院では、高度肥満症の患者さんに対する減量手術（腹腔鏡下胃縮小術/スリーブ切除術）を2017年5月に岐阜県下で初めて実施しました。

食文化の欧米化や、交通産業の発展による運動不足などにより、我が国における肥満者の割合は年々増加の一途を辿っており、糖尿病や脂質異常症、高血圧症に代表される種々の生活習慣病を有する患者さんも増え続けています。今回は、高度肥満症に対する最新の医療について、減量手術を含めて皆様にご紹介したいと思います。

日本ではこれまで、肥満症の治療は食事療法、運動療法、薬物療法に代表される内科的治療のみでした。しかし、減量を主目的とし、安全に使用できる薬剤は存在しないため、食事運動療法による減量が治療の主体となります。しかし、BMI^(注1)が35^{kg/m²}を超えるような高度肥満を有する患者さんは、減量意欲があっても実践につながらない、もしくは精神的に不安定になり過食となってしまう、などの理由で治療がうまくいかない方も少なくありません。高度肥満患者さんの体重を激減させ、生活習慣病を改善させる効果的な内科的治療法は、事実上ないというのが現状です。そこで胃の一部を切除し食事摂取量を減らすことで、体重減少を期待するといった外科手術が選択肢として考えられてきました。



高度肥満症に対する手術治療は欧米では60年以上の歴史と実績のある手術です。現在海外では、年間30万件以上の減量手術が行われています。元サッカー

アルゼンチン代表のマラドーナ選手や元大関のKONISHIKIさんも、減量手術を受けられたそうです。日本では2002年から腹腔鏡による減量手術が導入され、2014年に腹腔鏡下胃縮小術（腹腔鏡下スリーブ状胃切除術）が保険適応となりました。胃を小さくすることで、単純に体重を減らすのみならず、体内のホルモンや免疫機構が変化することにより、糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの生活習慣病の改善効果も期待されています。例えば糖尿病の寛解率に至っては約80%にもなります。今までは投薬による治療が中心であった代謝疾患を、手術により治す画期的な治療法であり、減量・肥満・代謝手術として日本でも非常に注目されています。現在は、6ヶ月以上の内科的治療によって、十分な効果が得られないBMIが35^{kg/m²}以上の患者さんで、糖尿病、高血圧症又は脂質異常症のうち1つ以上を合併している方が手術の適応となります。

(注1) BMI (Body Mass Index: 体格指数)とは

$$\text{体重(kg)} \div \text{身長(m)} \div \text{身長(m)}$$

で計算します。

標準は22、25以上で肥満。

(例えば) BMI=35とは
体重…102kg 身長170cm

糖尿病・腎臓内科 藤谷 淳
外科 高橋 崇真



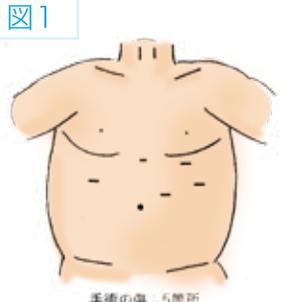


図1

この手術は、腹腔鏡下に行います。図1のように腹部の5箇所の小さな創から内視鏡などの手術機器を挿入し手術を行います。傷が小さいので開腹手術に比べて体への負担が非常に少ない低侵襲な手術です。スリーブ状胃切除とは、胃の大弯側を図2のAからBように

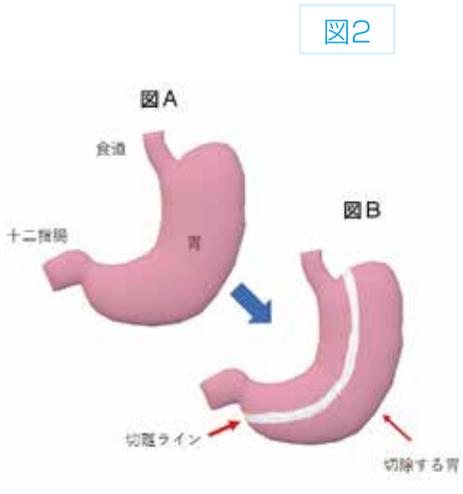


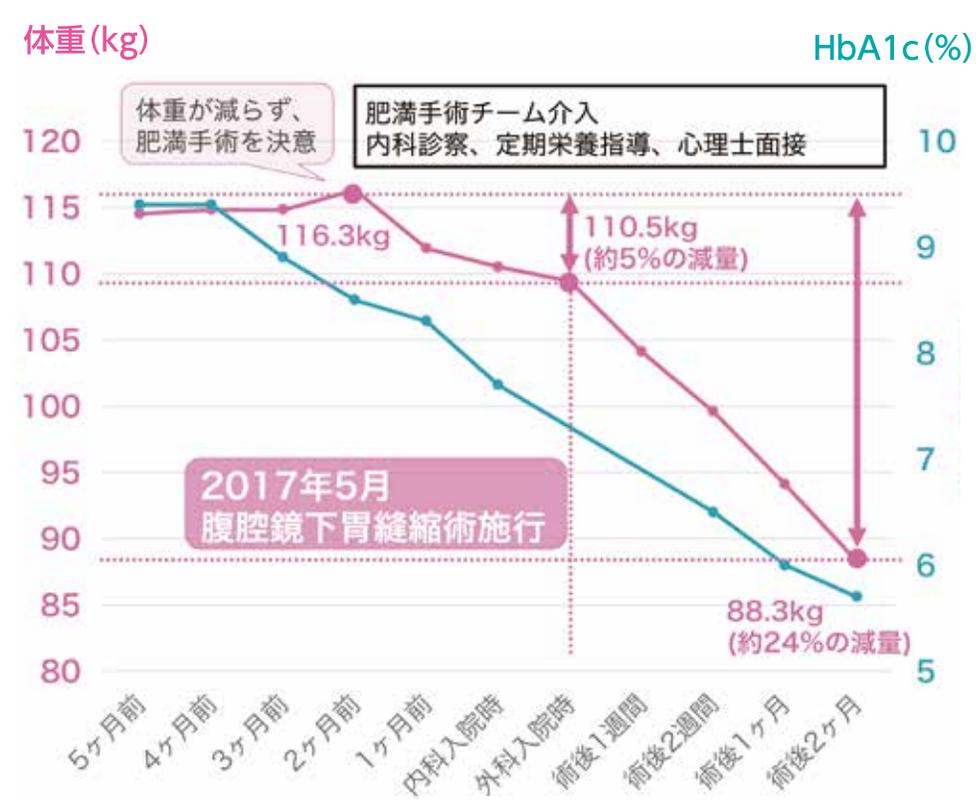
図2

切除し、胃の容量を約1/10程度にする術式です。食事摂取量を減少させ、食欲をコントロールすることで効果的な体重減少を得ようとするものです。この手術により平均30kgの体重減少が得られます。

高度肥満症の患者さんには、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの様々な合併疾患が多く、手術後の栄養管理、精神的なケアも必要です。また、手術により胃の大部分を切除するため、術後の食事療法は非常に徹底していただく必要があります。



す。術前は「食べられるのに食べてはいけない」、術後は「以前のイメージで食べようとする」と食べられなくて気持ち悪くなってしまう」などストレスを感じる患者さんも少なくありません。そのため、手術を受けられる患者さんは、外科手術に伴うリスクを十分に理解し、治療を受け健康状態を改善することに前向きで、治療後の食事、運動、さらにフォローアップのための外来通院の重要性を理解している必要があります。当院では、内科医、外科医、精神科医、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床心理士により構成される「肥満症手術チーム」が総合的に診療に携わることで、本治療がより安全かつ効果的に実施できるよう、術前、術後の管理を行っています。



手術を希望された患者さんには、肥満症手術チームによる診療を開始します。内科的治療及び心理面でのサポートを行い、手術に備えて、術前2〜3ヶ月前から食事療法による減量も開始し、全身のチェックも行います。手術直前に、食事指導及び血糖値や血圧、脂質管理のための入院を約1週間行い、手術に臨み、手術後は順調な経過であれば10日ほどで退院できます。術後も肥満症手術チームによる診療を継続していきます。

減量手術は、日本では限られた十数施設のみで行われています。岐阜県では現在、大垣市民病院が唯一の実施可能施設となっております。愛知県でも2施設と限られています。当院の強みとして、豊富な内視鏡手術の実績があります。年間670例（2016年）の腹腔鏡、胸腔鏡手術を実施しており、これらの豊富な経験から、本手術のような高度な手術技術を必要とする新しい手術も、安全に施行が可能となっております。

減量手術は、減量のみならず、合併疾患の改善も期待でき、生活の質の向上が得られる治療です。減量手術をご希望の方は、ご相談だけでも対応可能ですので、まずは糖尿病・腎臓内科、または外科の外来までご連絡ください。

看護部

がん放射線療法看護 認定看護師の仕事

放射線治療科 がん放射線療法看護認定看護師 高木かおり



看護部の理念
安心と満足につながる
温かな看護の提供

がん治療の一つである放射線療法をこ
存じますか。放射線療法は身体への負担
が少なく、機能温存できることが特徴で
す。がんの種類によっては手術と同等の
治療成績が見込め、がん性疼痛にも効果
が見込めることから、がんの根治から症
状緩和まで幅広い対応が可能な治療方法
といえます。しかし、放射線療法の効果
を最大限に得るためには、治療を継続す
ることが重要です。

私の役割は、専門的な知識・技術を用
いて治療中の状態観察や副作用の評価・
ケア、医師への報告などを行い、患者さ
んやご家族が安全に、安心して治療を継
続できるよう支援することです。また、
患者さんご自身がセルフケアできるよう、

治療に対する不安の軽減や日常生活指
導を行います。多職種の関わりが必要
な放射線療法において、治療室内の医
師や技師、受付スタッフはもちろん、
各科外来・病棟スタッフとの連携・調
整など、チーム医療のコーディネー
ターとしての役割も担います。そのほ
か、看護実践モデルとして院内の看護
職者に対する指導・教育・相談を行
います。

患者さんやご家族が少しでも楽に治
療をやり遂げられるように支援したい
と考えています。放射線治療室にお
りますので、遠慮なくお声を掛けてくだ
さい。



放射線治療科
放射線治療受付



地階

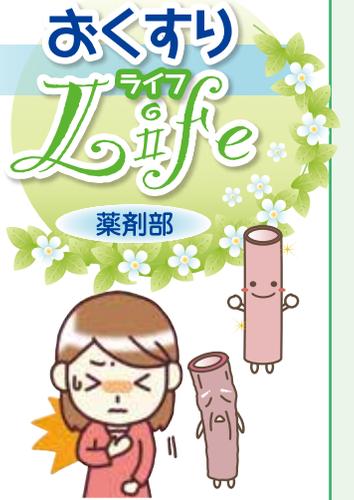


最近では、PCSK9阻害薬という新しい
薬も出てきました。これはLDLコレステ
ロールの肝臓への取り込みをコントロールす
るPCSK9という酵素の働きを抑えて、
LDLコレステロールの肝臓への取り込みを

促進、血液中のLDLコレステロールを低
下させる皮下注射の薬です。ただし使用で
きるのは他の薬で効果が不十分な場合や遺
伝的に脂質異常症である方など制限があり
だれでも使用できる薬ではありません。
脂質異常症は人によって目標とするコレ
ステロールや中性脂肪の値が異なりますの
で、自己判断で内服を中断せず、必ず医師
の指示に従いましょう。

脂質異常症は、以前、高脂血症と呼ばれ、
LDL(悪玉)コレステロールや中性脂肪が血
液中に必要以上に増えている状態のことをい
いました。しかしHDL(善玉)コレステ
ロールは低い方が良くないとされており、高
脂血症という呼び方は不適切と考えられ、今
では脂質異常症と呼ばれるようになりました。
脂質異常症の状態を放っておくと動脈硬化
が進行し心疾患や脳梗塞のリスクが増加しま
す。脂質異常症は食事や運動など生活習慣で
も改善できることもありますが、改善されな
い場合は、薬による治療が必要になります。
今回は脂質異常症に用いられる薬剤につ
いてご紹介します。脂質異常症に対する薬は効
き方の違いで分類することができます。

HMG-CoA還元酵素阻害薬、小腸コレ
ステロールトランスポーター阻害薬、陰イオ
ン交換樹脂、プロブコールは、主にLDLコ
レステロールを低下させます。一方、ファイ
ブラート系薬、ニコチン酸誘導体、オメガ3脂
肪酸製剤は主に中性脂肪を低下させる薬です。
必要に応じて異なる種類の薬を併せて使用
する場合もありますが、組み合わせによって
は副作用の起こる可能性が増えるため注意す
る必要があります。



脂質異常症の治療薬

分類	作用機序	当院採用薬
HMG-CoA還元酵素阻害薬	コレステロールを合成する酵素を阻害し、肝臓でのコレステロールの合成を阻害。血中のLDLコレステロールを低下させる。	Crestor、メバロチン、リパロ、アトルバスタチン
小腸コレステロールトランスポーター阻害薬	小腸からのコレステロールの吸収を阻害し、血中のLDLコレステロールを低下させる。	ゼチーア
陰イオン交換樹脂	コレステロールの代謝物である胆汁酸と結合し、コレステロールの吸収を抑制する。	コレバイン
プロブコール	コレステロールの胆汁への排泄促進、肝臓へのLDLコレステロールの取り込みを増やすことで血中のコレステロールを低下させる。	ロレルコ
フィブラート系薬	中性脂肪の合成を抑制することに伴い、LDLコレステロール減少、HDLコレステロールを増加させる。	リビディル、ベザトール
ニコチン酸誘導体	中性脂肪の産生抑制と分解促進により、血中の中性脂肪を低下させる。	トコフェロールニコチン酸エステル
オメガ3脂肪酸製剤	魚油に多く含まれている成分で血中の中性脂肪を低下させたり、血の塊ができるのを防ぐ。	エパデール、ロトリガ
PCSK9阻害薬	PCSK9という酵素の働きを抑えて、LDLコレステロールの肝臓への取り込みを促進、血液中のLDLコレステロールを低下させる。	レパーサ

ご不明な点は薬剤部までお問い合わせく
ださい。

デジタルサイネージ(電子看板)を設置

平成29年9月から、デジタルサイネージを院内の主な場所4か所に設置しました。最新の情報、当院の紹介、お知らせ、外科と循環器内科の紹介などをお伝えしています。診察やお薬の待ち時間などにご覧ください。

【設置場所と時間】

- ・1病棟1階 会計前……………午前7時30分～午後5時30分
- ・1病棟2階 会計前……………午前7時30分～午後3時
- ・3病棟1階 自動販売機横……………午前7時30分～午後5時30分
- ・3病棟2階 デイルーム……………午前7時30分～午後5時30分



お知らせ

よろず相談・地域連携課出前講座

テーマ: 「知っておきたい薬の知識」
薬剤師から薬についての知識を学びましょう。

日時: 平成29年10月26日(木)
午後4時～午後5時

場所: 3病棟2階 デイルーム

問い合わせ先: よろず相談・地域連携課 内線 6176

糖尿病公開講演会

演題: 「そろそろインフルエンザです! 糖尿病とシックディ」
糖尿病・腎臓内科部長 傍島 裕司

日時: 平成29年12月21日(木)
午後4時～午後5時

場所: 管理棟5階 講堂

問い合わせ先: 糖尿病・腎臓内科 内線 2101

第22回 市民の健康広場

日時: 平成29年10月15日(日)
午前10時～午後3時

場所: 大垣城ホール



公開講演会

テーマ: 「大腸がんをもっと知ろう! ~早期発見・治療のススメ~」
外科医長 高山 祐一

時間: 午前11時～

場所: 大垣城ホール2階 会議室

*講演会以外に各種検診などを行っています。事前の予約は必要がありませんので、この機会に家族の健康状態をチェックしたり、役立つ知識を学んでみませんか。

胸部レントゲン・血液検査・血圧測定・体脂肪測定・血管年齢と骨量チェック・歯の健診・認知症簡易テストと予防法の紹介・介護相談・心肺蘇生法・AEDの使い方 など

※3つの講座については、事前の予約は必要がなく、どなたでも無料で参加いただけます。多数のご参加をお待ちしております。



大垣市民病院の敷地内は
全て禁煙

当院は管理規制により、病院敷地内において全面的に喫煙を禁止しています。たばこの煙は喫煙者をはじめ周りの人々にも健康上悪い影響を与えるため、受動喫煙を防止しなければなりません。病院は健康を守ることを使命とする立場から、建物内・外及び駐車場を含む敷地内全てが禁煙区域です。ご理解とご協力御願います。

大垣市民病院臨床研修の理念

- ◎社会人としての規律を守り、医師として思いやりのある人格を涵養する。
- ◎プライマリ・ケアに必要な幅広い診療能力を修得する。
- ◎チーム医療の一員として、安全・安心・満足の得られる患者中心の良質な全人的医療を実践する。

当院は、臨床研修病院に指定されており、次世代の医師育成のため、上級医の指導のもと研修医の臨床研修及び学生の臨床実習を行っています。

当院で一緒に働きませんか?

病院職員 随時募集中



大垣市民病院では、次のとおり職員を募集しています。

- 応募職種/正職員: 医師、看護師等
- 臨時職員: 看護師、技師、医療補助員等
- ※詳しくは当院ホームページをご覧ください。

大垣市民病院 採用 **検索**

○問い合わせ先/事務局庶務課 人事グループ 内線: 6133

編集後記

「四季の風」60号をお届けしました。次回は1月1日に発行予定です。「四季の風」では、今後とも多くの皆さまの声をお聞きしながら、読みやすい紙面づくりを目指してまいります。ご意見ご要望がございましたらお気軽にお寄せください。

大垣市民病院広報企画委員会
〒503-8502 大垣市南瀬町4丁目86番地
TEL(0584)81-3341 FAX(0584)75-5715
http://www.ogaki-mh.jp/
(電話でのお問い合わせについては、お間違いのないようお願いします)